

# 令和4年度 事業計画

社会福祉法人 丹原福社会

## 事業所

頁

○事務所	1
○居宅介護支援事業所	2
○在宅介護支援センター	2
○特別養護老人ホーム	3
○ショートステイ	3
○デイサービス	3

## 職務目標

### 【経理】

数年、感染症の影響により医療介護への政策の変化が益々複雑になっている。しっかり制度を理解し、経営につなげていきたい。また、外国人労働者に対する労務管理の知識をより深めていきたい。

### 【事務】

感染症対策が緩和されない間は、特に事務所の対応が必須のため、各所への配慮を怠らず、気持ちに寄り添い対処する。

### 【生活相談員】

令和4年度6月から「科学的介護情報システム(LIFE)」の導入によるデータ提出及び御家族様への説明と同意に努める。  
御家族様や他職種との連携を強め、安心・安全な生活を提供する。  
数値目標として、稼働率99%以上を目指す。

### 【介護支援専門員】

家族様と直接面会が、制限あるなか可能になっている。精神面で不安に思うこともあると思うが、今後もリモート面会等を活用し、お互いの顔が見れることで安心できるように対応していく。また、この環境下の為、利用者様や家族様の要望通りに、施設サービスが進まないことも考えられるが、可能な限り、要望に沿い、施設サービス計画書を作成していく。

### 【管理栄養士】

介護・看護職員とご利用者の状態について情報共有をし、利用者様個人に合わせた栄養計画を立てていく。また、非常食の適切な管理・見直しを定期的に行っていく。

### 【機能訓練指導員】

令和4年度も引き続き愛媛県ノーリフティングケア協力事業所に選定され、また今年度は介護ロボットプラットフォーム事業にも応募している。  
ICTなど最先端の技術を用いたケアの方法を取り入れながら、ご利用者の身体的機能の向上を図っていく。

## 居宅介護支援事業所

### 目 標

令和 4 年度から地域包括支援センター丹原が創設され、より地域包括との連携が密となることで、更に質の高いケアマネージメントを目指していく。

利用者の情報共有し、ケアマネ間でのサポートができるよう協力していく。引き続き、積極的に新規相談を受け入れていく。

令和4年度 特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス 事業計画

①・・・年度終了時に達成したい目標 ②・・・3ヶ月以内に達成したい目標 ③・・・半年以内に達成したい目標

事業所名	水分	活動	排泄	食事	稼働率及び維持・向上の取組
特養 2階 U1	① 飲める量を飲めるだけ、飲んでいただく。	利用者様と職員との触れ合い・コミュニケーションを継続していく。	M/Lで排泄していただく。	食べられる量を食べられるだけ、召し上がっていただく。	☆目標：95.01% 普段から、利用者様の体調や表情の変化を見逃さない。変化があれば、主治医に相談する。体調を崩さない様に、衣類や室温を調整する。空所を2週間以内に取戻すように、相談員と普段から連携する。
	② 飲み物を選択できるように、メニューの提示や声かけをする。	気候や天気をみて、少しでも外の空気が吸え、気分転換ができる。	朝食後に、M/Lに座り、排便を促す。	食事形態の見直し・変更をする。	
	③ 利用者様の飲み物の嗜好の嗜好共有をする。また、新しく入所された利用者様には、早期の把握をする。	日中のM/Lやバヤや定浴等を継続していく。	飲み物に食物繊維・オリゴ糖・ゼリーを活用し、排便へ繋げる。	口腔体操や唾液分泌促進剤(サリ・リ)を7を徹底する。	目標・・・9.9% 身体状態の変化に気付けるよう日々の観察を徹底する。また、歩行できる方、転倒リスクのある方の転倒予防(骨折予防)を徹底する。 他職種と協働してスタッフ間の情報共有とケアの統一を行う。
特養 2階 U2	① 個々に合った水分ケアを行う。	個々に合わせたその方らしい生活を送っていただく。	ご利用者様に無理なく自然排便していただく。	ご自身で食事を召し上げられる方の残存機能を維持する。	
	② 水分摂取の必要性、重要性を学び、水分ケアについて理解する。	個々の好きなこと、できることを分析・把握しスタッフ間で情報共有する。	各ご利用者様の排便状態をスタッフ間で情報共有する。また、下剤の適切な使用方法、調整を行う。	口腔体操の継続と手指を使った日常生活リハビリを行う。	
	③ 個々に合わせた目標水分量の設定と定期的な見直し。	個々に合わせた余暇の過ごし方を実施・評価する。	水分ケアと併せて腹部マッサージや適切なトイレ誘導、立位・歩行訓練等を行い自然排便を促す。	個々の身体状況の把握と食事形態・使用食器の見直しを行い適切な援助を行う。	目標・・・98.5% ご利用者様の体調変化や表情を日々しっかりと観察し、気持ちや訴えに丁寧に向き合う。また、普段の関わりから異変やレベル低下を早期に発見し、介護職員のみならず多職種との連携を普段より密に行い、入浴されることなど空室を最小限にすることができるようケアをしていく。
特養 3階 U3	① ご利用者様に負担なく、1日1000ml~1200mlを目録水分とし楽しんで摂取していただく。	個々に楽しんでいただけたらだけレクリエーションの提供。	パット内排泄を減らし、トイレで排泄できるように援助する。	安全に安心して食事ができるような環境を整える。	
	② 個々の嗜好の把握と嚥下状態の確認	ご利用者様1人ひとりの好きなことやできる事の把握。	個々の排泄パターン・便秘・食物繊維やオリゴ糖を活用しスムーズな排便・排便へ繋げる。	個々の食事形態の見直しとご利用者様の姿勢や介助方法の見直し。	
	③ 摂取量の少ない方への声かけの工夫と定着化。また、職員間での情報共有を行う。	週に1回以上、レクリエーションの時間を確保し実施する。	振り返りを行い、トイレ誘導の時間変更をしていく。	振り返りや状態の変化等に気づき、随時情報共有をし対応する。	目標・・・97.0% 体調の変化に早めに対応できるよう、職員で情報共有する。
特養 3階 U4	① 各利用者様に合わせた目標水分量(1000~1300ml)摂取	個々のADL向上維持に向けてレクリエーションを継続する	トイレ内排泄の継続していく	五感を刺激して美味しく感じて頂けるよう食事・季節を感じて頂ける環境づくり	目標・・・98.5% ご利用者様の個別シートの充足をしつつ、日々の体調や表情をしっかりと観察に努め、介護記録でのスタッフ間の情報共有。 ・体調不良の早期対応、相談員報告し、入院することをしないようにする。入院期間15日以上になれば、空所改善を目指す。 ・空所改善を目指す。
	② 各利用者様の水分量の見直しと設定を行い、季節水分一覽表を作成する。	週2回の個別レクリエーション(ボウリング)を行い、手すりでの立位訓練、歩行訓練等を行う。	個々の排泄パターン・便秘・食物繊維やオリゴ糖を活用しスムーズな排便・排便へ繋げる。	個々の食事形態の見直しとご利用者様の姿勢や介助方法の見直し。	
	③ 水分が摂れない人の好みや把握してこまめに声かけする	月1回以上の宝座や天気の良い日の散歩を実施を加えて行い、見直し、改善していく	個々の排泄パターン・便秘・食物繊維やオリゴ糖や繊維を活用し、排泄・排便へ繋げる。	振り返りや状態の変化等に気づき、随時情報共有をし対応する。	目標・・・97.0% 体調の変化に早めに対応できるよう、職員で情報共有する。
特養 4階	① ご利用者様に負担なく、1日1000mlを目録水分とし個々に合わせた水分摂取を継続する。	ご利用者様のADLの向上を目指し個々に合ったレクリエーションを継続する。	トイレでの排泄を目指し支援する。	安心・安全で楽しく食事ができるような環境を整える。	
	② 体調・飲み込みのレベルに合わせてゼリー・トロミ剤などを使用し、無理なく介助する。	ご利用者様に楽しく身体を動かしていただき、レクリエーション活動への定着を図る。	食後トイレに座り、排尿・排便を促す。	個々の食事形態・姿勢の見直し、個々のペースに合わせた食事介助が統一できるような環境を整える。	
	③ 個々の好み、体調に合った飲み物を提供し、情報共有・ケアの統一を図る。	個々に合わせた生活リハビリ・レクリエーションの見直しを継続する。	便秘にならないよう、水分摂取・食物繊維の使用等情報共有してケアの統一を図る。	実施内容の振り返りと改善を行う。	
シヨト	① ご利用者様の個々に合わせた目標水分量を無理なく飲んで頂く。	季節の行事やレクリエーションを取り入れADLの維持・向上を目指す。	トイレ内での排泄継続と失禁・失便軽減を目指す。	ご利用者様の要望に合わせたおやつや提供、おやつ作りの参加で食への関心を引き出す。	目標・・・50% ご利用者様が、楽しくまた行きたいという気持ちで食事の提供を受ける。その際にも個々のケアの質の向上、レクリエーションの充実、美味しい食事(おやつ)の提供を目指す。また、空室を作らないようにご家族様や他事業所のケアマネージャーと連携を密に取らる。
	② ご利用者様の既往症、現在の状態(浮腫等)を把握し水分目標量の見直しと設定及び好み飲み物の把握を図る。	日常的なレクリエーション及び季節に応じた行事・制作を計画し実施する。	ご利用者様の一人一人の排泄パターンを把握しリハビリパンツのサイズの見直し。	振り返りや状態の変化等に気づき、随時情報共有をし対応する。	目標・・・76% 空室状況、細やかな個別ケアやご利用者様の状況等、定期的に各事業所に提供していく。また、当日お休みの方の施設利用、追加利用、新病棟利用を積極的に受け入れていく。より一層個々に合わせた生活リハビリ、レクリエーション豊かなレクリエーション、運動等を職員全体が工夫し、提供することで活動的に楽しんで利用して頂く環境を構築していく。
	③ 水分摂取量の振り返りを行い、確認・工夫・改善を行う。	個々のADLに合わせたレクリエーション活動ができていくか評価し、意欲と楽しみに繋げる。	実施内容の振り返り、見直し。変更あれば、改善を行う。	振り返りや状態の変化等に気づき、随時情報共有をし対応する。	
テイ	① ご利用者様の情報把握し、個々に合わせた目標摂取量を摂取して頂く。	体操・運動を通して個々のADLの維持・向上を目指す。	トイレ内での排泄を目指し、清潔保持に努める。	安全で個々に合わせた食事環境を提供していく。	
	② ご利用者様の情報収集を行い、摂取量嗜好を把握し(四季に合った飲み物、温度等)、提供をする。	個々に合わせた運動を提供するとともに日中安全に活動ができるような環境作りをする。	定期的なトイレ誘導を行い、対象利用者様には排泄チェックを行う。	個々に合わせた食事形態の情報収集と共有を行い、環境を整え、安心・安全に食事を頂く。	
	③ 振り返りを行い、更に工夫、改善を行う。	実施内容の振り返りを行い、更に工夫、改善を行う。	実施内容の振り返りを行い、個別の排泄パターンの把握、対応することで清潔保持につなげる。	実施内容の振り返りと確認、更に工夫を行う。	